

# 大鉄塔をもって三里塚空港を粉砕せよ！！

★狂気の弾圧をはたけ、反対同盟と共に、大鉄塔を断固建設せよ★

昨年十二月以降、国家権力は、彼らの至上命令である「六月開港」に向けて、三里塚並山連合空港反対同盟の壊滅をたくらみ、青年行動隊・三里塚斗争高校生協議会のメンバーのデモや上げ無差別逮捕を強行し続けている。一方、フルジョアマスコミキを用いて、「同盟壊滅」「同盟を発生との分裂」云々と、三里塚斗争があたかも敗北し去ったかのような宣伝を大々的に行なっている。しかし、それらは、反対同盟を中心とする反対派への権力の恐怖以外の何ものでもない。今なお続けられている機動隊による団結小屋へのいやがらせ、二百名にも及びガードマンによる敷地周辺のパトロール・検問体制等々も、その証である。

★大鉄塔をもって、三月のフライトチェックを粉砕せよ★

政府は空港公団は、六月に政治的・脅威を飛ばさんかたのみに、YS11とセスナという小型機による形式的飛行試験を行なおうとしている。(大型機の騒音による)周辺住民の斗争への決意を恐れる空港公団は、滑走路離一千Mにも満たないYS11を用いた飛行試験によって、空港としての体裁をととのえ、六月開港になりしめしめしに持ち込まんとしている。パイプライン・首都圏交通機関等々の関連事業が一切展望の見えない政府は空港公団にとって、とにかく六月に空港を飛ばし、反対斗争に敗北感を与え、周辺住民の闘争に打撃を与えんが為の一ステーションとして飛行は存在する。であるが故に、我々は、断固としてどういった飛行試験を粉砕しつくさねばならない。今や、政府は公団は、あれほど絶対と公言していた六月開港もおぼつかない状態に追い込まれている。

★四千M滑走路南端に、大鉄塔を建設し、一期工事粉砕・開港阻止・アアロー工エリア死守の、一大据点とせよ★

六五有糸に及び三里塚斗争は、自然発生的な「農地死守」の突破口から出発し、国家権力との暴力的対峙を経て、自らの階級性を明確につかみ取って来た。六十年代半ばから急速に発展して来た日本帝国主義の国内再編の一環として、また、沖縄と共にアジアに向けた侵略と反革命の進行として三里塚斗争はあらし、その建設過程における農地収奪や生活破壊もまた階級的なものである。

大鉄塔の建設は、これまでの三里塚斗争の勢力斗争の質を塗り替えて発展させるものとしてあるし、また、反対同盟を一段ときたえあげるものとしてもあるであろう。一切の関連事業反対斗争のゆくえも、四千M滑走路壁刀阻止の斗いに負っている。我々は、再度明確におさえておかなければならない。一期工事を粉砕し、開港を阻止する争のみがすべての関連事業を粉砕する争なのだ。反対同盟と共に、大鉄塔を建設し抜き、開港阻止、フライトチェック阻止を要力斗争でもって争おうではないか。権力の狂気の弾圧と、アマスコミの「同盟壊滅」のフレムアップには、大鉄塔の建設と防衛をもって応えようではないか。

3.12 現地総決起集会に結集せよ、明日三里塚連